

1 文のしくみ(1) / 仮名づかい・送り仮名

トレーニング

1 次の各文の 線部の主語をア～オの中から記号で答えましょう。

ただし、主語がないものには×で答えましょう。

(1) 子犬を ア 連れた イ 少年が ウ 鼻歌を エ 歌いながら オ 散歩する。

(2) この ア 科学の イ 本は ウ ぼくが エ 愛読する オ 週刊誌だ。

(3) 妹は、ア 母や イ 姉と ウ ひな祭りの エ 準備を オ 始めた。

(4) 山の ア 方から、イ とんびの ウ 鳴く エ 声が オ こだまする。

(5) 夏休みには、ア 息子と イ いっしょに ウ アゲハチョウの エ 自由研究に オ 取り組んだ。

【チェック】 わからない場合はP.84「文のしくみマスターポイント1」を

読もう。

2 次の「」の漢字の送り仮名が正しいものを記号で答えましょう。

(1) 馱でおじさんと「ア 別かれる イ 別れる」。

(2) ひもを固く「ア 結すぶ イ 結ぶ」。

(3) むずかしい実験を「ア 試みる イ 試る」。

(4) 兄から本を「ア 借る イ 借りる」。

(5) 「ア 浅い イ 浅さい」川が流れる。

3 次の言葉の読み方をひらがなで書きましょう。

(1) 往復

(3) 鼻血

(5) 遊園地

(7) 夕方

(9) 栄養

(2) 大通り

(4) 身近

(6) 計画

(8) 築く

(10) 続く

実カアップ

1 次の各文の——線部の主語を答えましょう。ただし、主語がないものには×で答えましょう。

□(1) 高原の空気はとてもおいしい。

□(2) 私はこの学区の小学校の生徒だ。

□(3) どしゃぶりのはげしい雨にふられた。

□(4) 小鳥が仲間たちと楽しそうにさえずる。

□(5) ひまわりの大きな花がどうどうとさいた。

□(6) 夜空には無数の星がまたたく。

2 次の各文の——線部を正しい仮名づかいにして、文全体を書き直しましょう。

□(1) ぼくわぐラウンドえ行き、サッカーのパスの練習おした。

□(2) いただいた桃のかんずめを三人の兄弟で一個づつ食べた。

□(3) 命が大切なのは、ゆうまでもない。

3 例にならって、次の□にひらがなを一字ずつ入れて、意味が通るようにしましょう。

例 ① 荷物が重 い。

② 本を重 ね る。

① 清 水。

② 塩で清 る。

① 川が流 る。

② 水を流 る。

① 羊が群 る。

② 羊の群 る。

4 次の文中には、仮名づかいと送り仮名のまちがっている言葉が1か所ずつあります。それらを直し、文全体を書き直しましょう。
暗い空がぱつと光かり、おうきなかみなりがごろごろと鳴った。